

高校生 ワーキングプア 「見えない貧困」の真実

NHKスペシャル取材班

高校生ワーキングプア
「見えない貧困」の真実



9784104056095



1920095013008

ISBN978-4-10-405609-5
C0095 ¥1300E

⑤定価：本体1300円(税別)



働かなければ、学べない。

日本の子どもの「7人に1人」が「貧困状態」。その実相に迫る!!

NHKスペシャル取材班

新潮社

学費だけでなく、生活費を稼ぐ必要からダブルワークは当たり前。もらいものに囲まれた家では、きょうだいの世話と家事全般をこなす。成績優秀でも、学費が賄えず、奨学金に加え他の債務を背負う可能性も……。

最新ファッションにスマートフォンを持ち、一見すると、「普通」の彼らが直面する「見えない貧困」の実態を炙り出す。

帯収入に左右されずに希望する進路に進学できる」というにはほど遠い状況だ。

そうした中で、企業や地方自治体では、「優秀な若者を支援したい」という目的で、大学進学を後押しする制度を整え始めている。ここでは2つの取り組みを紹介したい。

ぶり奨学金とは？

人口1万人ほどの小さな町、鹿児島県長島町。ここで2016年から始まったのが「ぶり奨学金プロジェクト」だ。町で育った子どもたちの多くが、都会に出てしまい、地元に戻ってこないという危機感から始まり、優秀な学生たちに、故郷に戻ってもらうことが狙いだ。

「ぶり奨学金」を借りて大学進学した学生が、町にUターンして戻ってきて、就職した場合、大学の授業料として貸した奨学金の返済をすべて免除するという制度である。

このプロジェクトのユニークさは、その財源にある。実は、長島町はぶりの養殖で有名な町だ。そこで、ぶりが1匹売れた場合、1匹につき1円を寄付金として集めるなどした寄付金を財源にしている。

同様のプロジェクトは、他の自治体にも広がっている。同じぶりの特産地である、富山県氷見市も、長島町と共同で、ぶり奨学金の推進と研究を行うことが決まった。

このプロジェクトを仕掛けたのは、まだ30歳という若さの副町長、井上貴至氏（当時）だ。東京大学を卒業後、総務省に入省し、地方創生人材支援制度で長島町に赴任してきた。井上

氏は、記者会見の場で「ぶりは回遊魚であり、出世魚でもある。ぶりのように、若い人たちが都会で学び、故郷のリーダーとして戻ってきて欲しい」と話している。

奨学金返済支援プログラム

さらに、奨学金の返済を大学在学中から支援するプログラムもはじまっている。このプログラムの魅力は、奨学金だけでなく、入学金を支払う支援も同時に可能にしている点だ。

「大学に合格したが、入学金を払えない」という理由で、進学を断念してしまう人も少なくない。授業料を貸与する奨学金は入学前に支払われないためだ。

そこで、入学前に必要な費用を貸し出すだけでなく、在学中に借りた奨学金の返済も手助けするという新たな仕組みを立ち上げたのだ。プログラムに協力したのは、人材不足が深刻な介護業界だ。学生アルバイトに介護業界で働いてもらい、人材を確保しようと、新たな仕組みを作ったのだ。

この仕組みでは、まず「働き手が欲しい介護施設」と「進学費用などに困っている学生」を入学前にマッチングし、介護施設から学生に入学金などを貸し出す。無事に進学した後、大学在学中は、介護施設で働いてもらい、その給与から奨学金を返済していくという仕組みだ。

働く時間は、特に人手不足が深刻な早朝、夜勤、泊まり勤務の時間帯が中心となる。実は、

この時間帯は時給が高くなり、学生にとっては、授業時間ともぶつからず、効率よくお金を稼いでもらうことができる。

この仕組みを考案した株式会社「介護コネクション」の代表、奥平幹也さんは、「人手は足りていないけれど時給が高いアルバイト、お金の困っているけど時間は自由な学生。2つをマッチングできないか」と考えたという。

この制度を利用して介護施設でアルバイトしながら大学へ通う男子学生を紹介してもらった。タカシくん(仮名)は、高校3年生のときに父親が病気で倒れ、大学の入学金が工面できなかった。そのとき、高校の先生に勧められ、この制度の利用に踏み切った。介護施設から入学金など80万円を借りて進学した。在学中は、日本学生支援機構から240万円の奨学金を授業料として借り入れた。

夜間大学に通うタカシくんは週5日、早朝の6時から9時の3時間アルバイトしている。早朝で時給が高く、収入は月16万円になる。しかも、昼間の時間帯は勉強や趣味などに使うことができる。

プログラムでは、アルバイト代から毎月5万円を奨学金の返済分として預金していく。タカシくんは、卒業と同時に全額返済の目処が立った、と話してくれた。

「この制度がなければ、そもそも大学に行けなかったかもしれない。しかも、アルバイトと学業の両立を支援してもらっているので、とても働きやすい。将来は、介護の知識を生かし

た仕事につきたい」

優秀な人材を募集する企業などが、学生に「卒業後の就職」などの条件で奨学金を支援する動きも、ますます加速している。進学を希望する高校生が、こうした情報をキャッチし、進学の可能性が担保されるよう、社会全体が環境を整えていくことも大切だろう。

こうこうせい
高校生ワーキングプア 「^み見えない^{ひんこん}貧困」の^{しんじつ}真実

著者 NHKスペシャル^{しゅざいはん}取材班

発行 2018年2月15日



発行者 佐藤隆信
発行所 株式会社新潮社 郵便番号162-8711
東京都新宿区矢来町71
電話：編集部03(3266)5611
読者係03(3266)5111
<http://www.shinchosha.co.jp>

印刷所/株式会社光邦
製本所/株式会社大進堂

© NHK 2018. Printed in Japan

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが小社読者係宛お送り
下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。
ISBN978-4-10-405609-5 C0095
価格はカバーに表示してあります。

写真
装幀
© Digital Vision/Getty Images
新潮社装幀室